



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏
tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp
発行 月報編集委員会 発行日 2018年4月1日 No. 47



photo by Kaz Sato

あなたがたは十字架につけられた
ナザレのイエスを捜しているが、
あの方は復活なされて、ここには
おられない。

マルコによる福音書 16章6節



シリーズ説教

『等しい神』

牧師 佐藤和宏

マルコ14章1節～15章47節

イエスの十字架の死は、すべて「なんとか計略を用いてイエスを捕らえて殺そうと考えていた」祭司長たちや律法学者たちの思いの通りに進められていたように見えました。しかし、イエスは祭りの間に、十字架の死を遂げられたのです。すべてが人の計画にみえましたが、すべてが神の計画のもとにあったのです。神の計画は「祭りの間」すなわち「過越祭」の期間中に、十字架の死を遂げさせるのです。そして、それは十字架の死が意味するところを明確にするためにほかなりません。

主の過越について聖書は、次のように記しています。「聖書略（出エジプト12章6節以下）」

キリストの十字架の死が、過越祭の間になされる必要性は、主の過越と同じように、キリストが十字架の上で流された血が、しるしとなって、神の裁きが過ぎ越す、すなわち私た

ちの罪に対する裁きが、キリストが十字架で流された血がしるしとなって、私たちを通り過ぎ、こうして罪の赦しが実現したことを明らかにするためにほかなりません。

さて、第二の朗読でお読みいただいたフィリピの信徒への手紙2章6節以下は、「キリスト賛歌」と言われる有名な箇所になります。

ここで言われていることを拾い上げてみますと、キリストは「神と等しい者であることに固執しようとは思わなかったこと」「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順であったこと」があげられます。「キリスト賛歌」と言いましたが、それはキリストを賛美する、讃える歌という意味になります。しかし、その方向性が一般に私たちが思い描くものと異なっていることがわかります。どういうことかと言いますと、通常讃える、賞賛するとは、相手を誉め高めることになります。ですから、「あなたは偉い」とか、「素晴らしい」とか、相手を高めることをその内容とするにちがひありません。ですからその方向性は、その対

象となる者を上へ上へと向かわせるものと言えるでしょう。ところが、このキリスト賛歌は、「神と等しい者であることに固執しようとは思わなかった」「人間と同じ者になられた」「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順であった」と、いずれもキリストを高めることではなく、キリストが低く低く

なられたことを言い表しているのです。しかし、「神と等しい者ではなく」「人間と等しい者となられ」「十字架の死に至るまで従順であられた」キリストを、神は「高く上げ」「あらゆる名にまさる名をお与えになった」のです。ここで初めて「キリスト賛歌」としての意味合いが示されているのです。つまり、だれかを高めるのはただ神であることを、キリストご自身が示されたことがわかります。

聖書によりますと、祭りの間にまづイエスがされたのは、過越の食事の準備でした。そして過越の食事の場面に於いてパウロは、次のように書いています。「聖書略（コリント11章23節以下）」

これは聖餐式の設定の言葉になります。私たちの罪を深く憐れまれる

神は、罪に対する裁きを私たちにもたらすことを望まれず、かえって御子イエスを十字架の上にあげられて、その血がしるしとなって、「過ぎ越す」ことを選ばれたのでした。そのためにキリストは神と等しい者であることに固執しないで、私たちと等しい者となられるほど、低くなられたのです。

私たちは聖餐を受けるたびに、キリストが十字架の上で流された血が、わたしの罪に対する罰を「過ぎ越す」しるしとなって、私たちは死を免れ、罪の赦しを得たことを繰り返して思い起こし、生きるようにと招かれています。四旬節の間、私たちは礼拝のたびに「キリスト賛歌」を歌って、私たちと等しくなってくださいましたキリスト、さらには十字架の死を遂げられたキリストを覚えるのです。キリストの十字架の出来事は、二千年前の歴史上の出来事ということではなく、今を生きる私のためであったということ、その心に刻んで生きるためです。

このキリストの十字架を信じる信仰によって、私たちは救われるのです。(受難主日)

■教会暦と典礼色

イースターを迎え、教会暦は「復活節を迎えました。復活節の期節(季節)とは書きません。(ご注意を!)」は、第6主日まで続きますが、第6主日は「昇天主日」にあたります。この期節の典礼色は、白になります。「白」は、私たちの礼拝式文の冒頭に記載していますように、「神とキリストの栄光を表す」色になります。主の復活とその栄光を覚える、これがこの期節の礼拝の大きな主題となります。

教会暦は、待降節第1主日から新しい一年が始まります。待降節の期節の典礼色は「紫」になります。これは「王の尊厳と悔い改めを表す」色となります。待降節第1主日は、11月30日に最も近い日曜日と規定されています。

その後、降誕節を迎え、典礼色は白になります。そして年が明けた1月6日に顕現日を迎え、最も近い日曜日が「顕現主日」となり、この日までがクリスマス期間になります。クリスマスが終わったら、片付けをしまいたくなるのですが、この

日まではクリスマスの飾りをそのままにしておくのが、慣例となっています。顕現主日の翌週は「主の洗礼日」となり、この日まで典礼色は白になります。そして、次の顕現節第3主日から、典礼色は緑になります。これは「希望と信仰の成長を表す」色です。

今年のイースターは4月1日で、「やけに早いなあ」と感じられた方もおられるかもしれません。イースターとペンテコステは、移動主日となっています。その決め方は、4世紀に定められたまを保持し、現在でも「春分の日を過ぎて、最初の満月の次の日曜日」と定められています。

その後、聖霊降臨祭(ペンテコステ)を迎えます。こちらもイースターに合わせて移動する主日になります。この日の典礼色は「赤」、「聖霊の働きを表す」色です。その後は聖霊降臨後主日が20週以上続き、典礼色は「緑」になります。

このようにルーテル教会では、教会暦に従って、一年をかけてイエスの生涯を追い、それぞれの期節、主日の主題を「典礼色」をもって知るように招かれます。(佐藤)

■新役員よりひと言②

田○○夫さん(代議員)・・・一年間の教会行事等を通じて、和やかな教会(笑顔が絶えない)となるよう神様の導きの下、お手伝いが出来たらと思っています。

山○○司さん(会計)・・・教会役員として、質問に対しては「事実に基づき説明」を心掛けます。私は礼拝に出席して、自分の心を清めるためと考えています。また讚美歌を歌うことは楽しみの一つです。好きな聖句は詩編119 V105がぴったり心に來ます：「あなたの御言葉は、

わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯」。

○谷○子さん(奉仕)・・・不安と緊張でいっぱいの新役員ですが、神様に助けて頂いて少しでも教会のお役に立てたらと願っています。

日頃は「叶うは良し、叶いたがるは悪し」と心がけていますが、聖句となると次元が高いですね。今は「見えないものに目を注ぐ」コリントです。

日曜日の楽しみは聖霊に満ちた礼拝に与ること、そして教会の皆様との雑談に尽きます。

■女性会だより

3月18日 礼拝後に開かれました

参加 18名

聖書の学び

コリント人への第二の手紙 12章

9節〜キリストの愛の強さ 私の

弱さの中にキリストの絶大な愛の強

さが発揮される

女性会話し合い

・前日行われた○梨姉・プ○○

シユ兄の結婚式について

・子育てママさんワークショップ

(仮題) イベント企画案について協議

した

その他告知

3月21日東教区定期総会

(コーヒーショップボランティア)

4月14日会長会と女性の集い

大岡山教会 10時半〜15時

■教会ピクニックのご案内

恒例の教会ピクニックは、4月30日(月)に開催されます。会場は、例年通り、横浜市くろがね青少年野外活動センターです。昨年より、アネモス群諸教会へのご案内に加え、カトリック藤が丘教会にもご案内をし、大勢のご参加をいただきました。今年は、準備段階から委員会に陪席くださっています。準備の都合上、申し込みは22日までにお願います。どうぞ、振るってご参加ください。

■イベントのご案内

東教区より伝道支援金を受け、今年4つのイベントが計画されています。第一弾は、5月20日(日)、藤が丘教会前任牧師の小副川幸孝先生をお迎えします。ペンテコステのその日、小副川先生に説教のご奉仕をいただき、お昼を挟んで講演会「良寛さんとキリスト教」をお願いしています。久しぶりにお会いできるのを、心待ちにしています。



■昨年のピクニックの様子

どうぞ、お出かけください。

■今後のイベント予定

6月10日(日) 鈴木秀子先生

「ストレスをためない関係性」

9月9日(日) 坂根シルック先生

「個を大切に豊かに生きる」

10月28日(日) 伊藤 悟先生

「聖書が示す人生の知恵」

お楽しみに。



■教会の動向



■3月の教会

2日は、世界祈禱日でした。世界中で同じ主題のもと、祈りを合わせられました。佐藤牧師は、安〇〇子さんを訪問しました。4日は、聖餐式、こどもメッセージがありました。礼拝後、定例役員会が開かれました。7日は、聖研がありました。8日、田〇〇るみさん、津〇〇子さんと一緒に、〇内〇生さんと田〇〇子さんをそれぞれ訪問し、聖餐式をいたしました。(いつでもどこでもお訪ねしますので、希望される方はお申し出ください。) 11日は、礼拝がありました。14日は、お仕事会がありました。16日には、洗礼後の学びがありました。17日には、〇野〇梨さんとプ〇



〇〇ーシユ・プ〇〇んさんの結婚式が執り行われました。18日は、礼拝後女性会、ピクニック委員会がありました。21日は、東教区総会が開催されました。4年間、教区常議員として勤められた〇田さんが、任期満了により退任されました。ご苦労さまでした。23日、24日の両日、教会で葬儀が執り行われました。25日は、受難主日礼拝があり、礼拝後、宣教委員会が開かれました。29日、洗礼後の学びがありました。30日19時より、受苦日礼拝が執り行われました。31日は、イースターの準備をいたしました。礼拝に初めてのお越しは、〇間〇さん、〇山昭〇さんでした。主の祝福をお祈りします。

■写真上から、〇内〇生さん(中央)、田〇〇子さん(右)、安〇〇子さん